

令和4年度 創造調和

令和4年5月9日
半田市立半田中学校
第3号
学校だより

生きる力を養う評価のあり方

学校では、しばしば「活動あって学びなし」という批判を受けることがあります。

「アクティブ・ラーニング」という言葉を聞いたことがありますか。学力を定着させるためには、人の話を聴いたり、読書や動画を視聴したりする受動的な学習よりも、人との対話や体験、学んだことを他者に教える「能動的な学習」の方が、学んだ内容をより定着させられると言われています。

しかし、能動的な学習を行っても、この授業で何が得られたのか、何が分かって何が分からなかったのか、どんな力がついたのかを自分で理解できていないと学びとは言えません。つまり、やりっぱなしでは定着しないということです。

そこで、大切なのが「学習評価」です。これは、生徒の学習状況进行评估するものです。生徒自身が、どういった力が身についたかを振り返って、次の学習に向かうことができるようにするためにも、一貫性のある評価を進めることが重要であると考えます。

そこで半田中学校では、1・2学期は中間テストを行わず、期末テストのみとしました。これは小学校と同様、様々な場面で評価をとるようにするため、それぞれの教科で単元テストや小テストを行うとともに、学習課題に対して、考え、判断し、表現する力など、日々の学習の成果とそれまでの過程を大切に評価したいと考えたからです。決して、期末テストのみで評価をしているわけではありません。だからこそ、毎日の授業で、何が分かって何が分からないのかを把握し、より分かるようにするための努力を積み重ねていくことが、学びの継続性につながると考えます。



評価は、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3観点で評価します。これは、生徒の「生きる力」を養うためのもので、多様性への理解や主体性、問題解決能力の育成が基盤となっています。

この10年は、テクノロジーの進化により大きく社会が変化してきました。AIやロボット技術の進化により、今後も想像を超える社会の変化が予想されます。だからこそ、自ら考えて、課題に立ち向かっていける人間の育成が必須です。特に、「学びに向かう力、人間性等」については、多様性を理解して仲間と協力する力、自分の感情をコントロールする力、優しさや思いやりなど豊かな人間性のベースとなる資質や力を伸ばすことに重点が置かれます。また、そのために学習に主体的な態度をもつことが重要視されます。

「受験」と「受検」ってどう違う？

過日、愛知県教育委員会より、令和5年度愛知県公立高校入学者選抜（全日制課程）において、「特色選抜」を実施する高校とその入学検査の内容が示されました。併せて、面接の有無についても示されました。

実は、私立高校は「受験」、公立高校は「受検」と区別されていることを知っていますか。受験と受検、読み方は両方とも「じゅけん」ですが、どんな違いがあるのでしょうか。

・「**受験**」：**試験を受けること。**

・「**受検**」：**検査・検定を受けること。** とありました。受けるものの違いが漢字の違いに表れています。では、試験と検査・検定の違いは何でしょうか。

・「**試験**」：**ある物事の性質や性能などを試してみることに。また、検査すること。**

・「**検査**」：**ある基準をもとに、異状の有無、適不適などを調べることに。**

・「**検定**」：**一定の基準に基づいて検査し、合格・不合格、等級などを決めることに。** とありました。試験の説明にも「検査すること」とありました。つまり、検査も試験の中のひとつで、調べる際に基準を設け、それを基に何かを決めるのが検査と言えます。

では、なぜ公立高校は受検なのでしょう。公立高校に入学するためには「入学者選抜検査」に合格する必要があります。一方、私立高校の場合は、「入学試験」に合格することで入学できます。

なぜ、公立高校は入学試験とせずに入学者選抜検査とするのかということ、公立高校は試験の優劣順で生徒を獲得するのではなく、原則としてある基準を満たした生徒は受け入れるというスタンスなのではないのでしょうか？ つまり、基準を学校側が予め決めているのか、試験の結果を見て決めるのか、という考え方の違いだと考えられます。

ただ実際は、学校の規模や倍率の関係で、基準を満たしても入学できない場合があります。公立高校の新しい入試制度では、校内順位の決定方式も示されており、新たに、学校の評定得点を2倍にする高校、当日の学力検査合計得点を2倍にする高校が加わります。評定も大切ですが、それ以上に、学力をつけることも求められます。

詳しくは、<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kotogakko/> をご参照ください。

皆勤賞について

昨年度まで、年間、無欠席・無遅刻・無早退の生徒に対する励みとして「皆勤賞」を設けていましたが、今年度より皆勤賞をやめる判断に至りました。入学した時から皆勤賞を目指してがんばっていた生徒の皆さんには、大変申し訳なく思っています。

これは感染症拡大防止の観点から、無理に登校して体調を崩したり、他の生徒に感染させてしまったりすることを避けるためです。時代は変わり、今、大人は休むときはしっかり休む「働き方改革」も進んでいます。欠席日数が高校入試に影響することはありません。

ご理解くださいますよう、よろしくお願いいたします。

